

第39回岡山バイオマスプラスチック研究会

産学官が連携しながら、基礎となる技術や製品開発の推進、バイオマスプラスチックの利用拡大に向けた普及啓発等を通じて、グリーンバイオ産業群の育成及び資源循環型社会の構築の促進を目指す岡山バイオマスプラスチック研究会では、この度、第39回研究会として、次世代高機能素材として注目されるセルロースナノファイバー（CNF）やCFRP複合材料の自動車産業への活用、並びにセルロース系バイオプラスチックの高機能化等に関する最新情報を提供するセミナーを開催いたします。

会員以外の皆様もぜひこの機会にご参加ください！！



◇日時 平成30年3月13日（火）13:30～17:00

◇会場 サン・ピーチ OKAYAMA 3F ピーチホール
(岡山市北区駅前町2-3-31/岡山駅東口徒歩8分)

◇主催 岡山バイオマスプラスチック研究会

◇定員 70人

◇参加費 無料

◇参加申込 参加申込書に必要事項をご記入の上、3月5日（月）までにお申し込みください

◇プログラム

(1) 講演① 13:35～14:45

自動車と複合材料 ー期待と展望ー

金沢工業大学大学院工学研究科 高信頼ものづくり専攻 教授 影山裕史氏

【要旨】近年、自動車産業においても軽量材料として複合材料のCFRPが注目され、走行時のCO₂排出規制などに対してなくてはならない存在になってきている。更に素材製造時のCO₂排出抑制を考えると、木材ベースのCNFを使用した複合材料も興味ある材料である。将来はこうした複合材料が適材適所で活躍する時代になるものと考えている。

(2) 講演② 15:00～16:10

セルロース系バイオプラスチックの高機能化への取り組み

ー環境調和性と装飾性（漆調ブラック、蒔絵調印刷）の両立ー

国立大学法人筑波大学 藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター

主幹研究員 位地正年氏

【要旨】非食用植物資源のセルロースを利用したバイオプラスチックの最新の技術開発について述べる。特有用な長鎖成分を結合してセルロース樹脂の耐久性を向上させ、さらに低エネルギーの製造技術も開発した。新たな付加価値として高度な装飾性に取り組み、伝統工芸の漆器がもつ優れた光学特性（漆ブラック）を実現し、さらに精緻な蒔絵を再現する印刷技術も開発した。最後に、本材料の今後の展望について述べる。

(3) 研究会会員企業による事業紹介 16:20～16:50

発表① 原子燃料工業株式会社 照射サービス部 営業グループ長 小川琢也氏

電子線照射による滅菌、及び高分子・無機材料の改質技術等の紹介

発表② おかやまバイオマスイノベーション創造センター 専任研究員 小野史彰氏

溶融紡糸法によるセルロース系高強度繊維の開発等、CNF及びCNC研究の紹介

(4) 平成30年度施策説明（岡山県産業労働部産業振興課） 16:50～17:00

◇事務局 (公財)岡山県産業振興財団 ものづくり支援部 研究開発支援課 担当：竹内・三宅
TEL 086-286-9652 FAX 086-286-9676 E-mail: stake@optic.or.jp

(公財)岡山県産業振興財団 ものづくり支援部 竹内 宛て FAX 086-286-9676

第39回岡山バイオマスプラスチック研究会参加申込書

企業・団体名		氏名	
所属部署		役職	
TEL		FAX	